

### 1. 事業の概要

湖沼の水質環境基準(COD)の達成率は、他水域と比べて、50%程度と低く、湖岸の人工化や漁獲量の低下もあり、湖沼の水質や生態系については、地域の望ましい湖沼像となっていない。

一方、湖沼流域では下水道等の汚水処理施設の普及が進捗しており、今後、大幅な湖沼への流入汚濁負荷の低減が望めない状況であり、湖沼の内部生産や底泥からの溶出等の汚濁メカニズムに対応し、自然浄化機能を活用した水質保全対策が必要である。

このため、水質、水量、水生生物、水辺地等を含む湖沼の良好な水環境を目指し、健全な水循環の構築のための方策及び汽水湖の汚濁メカニズムの検討を行う。

#### (1) 健全な水循環の構築のための方策

湖沼の水環境保全のため、自然浄化機能を活用し、健全な水循環の構築の方策を検討する。

- ・公募した湖沼において、ヨシ群落等の水辺植生や内湖の創出、底質改善を図る覆砂等の自然浄化機能を活用した事業を実施する。
- ・上記事業の実施により、生物多様性の保全や水質改善の効果を検証するとともに、水質予測の精度向上を図り、自然浄化機能を活用した手法の有効性を検討する。

#### (2) 汽水湖の汚濁メカニズム

海水の混合による流動、内部生産、底泥の溶出が複雑である汽水湖について、汚濁メカニズムや効果的な水質保全対策の検討を行う。

### 2. 事業計画

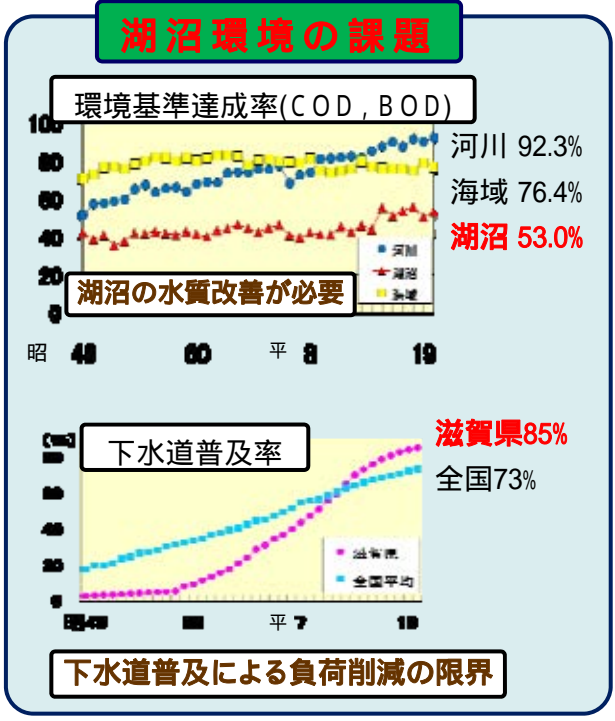
調査項目	H23	H24	H25
(1) 健全な水循環の構築のための方策	←		→
(2) 汽水湖の汚濁メカニズム	←		→

### 3. 施策の効果

効果的な湖沼水質保全方策について、実証事業や必要な調査・検討を行い、水質保全の一層の推進、湖沼流域の健全な水循環の推進を図る。

# 湖沼流域水循環健全化事業

**湖沼の水質改善、生物多様性の保全が必要**  
 下水道整備等が進捗 大幅な汚濁負荷削減が望めない  
 湖岸の人工化、漁獲量の減少 生態系の保全対策が必要



健全な水循環の構築のための方策  
 汽水湖の汚濁メカニズム

湖沼流域の健全な水循環の構築  
 ・湖沼水質の保全 ・生物多様性の保全  
 地域の望ましい湖沼像の実現

